

6 子音の完全同化

閉鎖音は開放されないと聴き分けることが困難である。英語では閉鎖音が2つ連続した場合、1番目の閉鎖音は開放されない。/pt/, /kt/, /bd/, /gd/では/p/, /k/, /b/, /g/の閉鎖は開放されず、例えば、*apt*の[p], *act*の[k], *webbed*の[b], *wigged*の[g]は聴き分けることが難しい。しかし、困難であるものの、聴き分けが不可能というわけではない。母音からの**入りわり音 (on-glide)**が閉鎖音を識別する上で手助けになる。これに対して、両側を子音に挟まれた[t], [d]は聴き分けが不可能である。この音声環境で[t], [d]は左側または右側の隣接音へ完全同化するからである。**完全同化 (complete assimilation)**により、隣接音との聴き分けはもはや不可能になる。

音の同化については、**類似性の法則 (law of similarity)**と呼ばれるものがHutcheson (1973)により明らかにされている。2つの音が隣接していて、その2つの音が似た音である場合、似ていない音どうしの場合と比べて同化しやすいことが例証されている。しかし、2つの音が似ているか否かを判別する形式的な手立て（例えば、2つの音が共有する音韻素性の数）が示されているわけではない。本稿では、伝統的な子音分類の3つの変数（声、調音位置、調音様式）を利用し、2つの子音が似ているとは、3つの変数のうち共有する変数の多い2子音のペアの方が似ているということとする。なお、3つの変数のうち既に2つの変数を共有しているペアは、残り1つの変数が同化により一致すると、この同化は完全同化ということになる。

完全同化の分析を示すにあたり、両側を子音に挟まれた[t], [d]が脱落する例を今井(2007: 114-115)から借用する。[fréndʃɪp] *friendship*では両側を子音に挟まれた[d]が脱落する。声、調音位置、調音様式の3つの観点から[n]と[d]のペア、[d]と[j]のペアのうち共有する変数が多いペアを探ると、声と調音位置の2つの変数を共有する[n]と[d]のペアの方が似ているということになる。類似性の法則は、[n]と[d]は同化しやすいとの予測をし、実際、[d]は[n]に調音様式の点で同化する（[r]で下がった口蓋垂が上がることなく[j]直前まで下がったままになる）。英語には同一ビート内で重子音がないことから、重子音を単純化する力が働いている。この力は、重子音を単純化する、という規則で表現するか、または、重子音を禁止する、という制約で表現することができる。いずれにせよ、[d]の**脱落 (elision)**は、隣接音への完全同化と**重子音の単純化 (degemination)**によって記述することが可能になる。

次に調音位置の同化を含む例を見る。[igzæktli] *exactly* では両側を子音に挟まれた [t] が脱落する。声、調音位置、調音様式の3つの観点から [t] と [k] のペア、[t] と [l] のペアのうち共有する変数が多いペアを探ると、声と調音様式の2つの変数を共有する [t] と [k] のペアの方が似ているということになる。類似性の法則は、[t] と [k] は同化しやすいとの予測をし、実際、[t] は [k] に調音位置の点で同化する。調音位置の同化により [ktl] は [kkl] になる。さらに、重子音 [kk] は同一ビート内にあるため単純化され [k] になる。このように、[t] の脱落は、隣接音への完全同化と重子音の単純化によって記述される。

重子音が同一ビート内にあるために単純化される例を見てきたが、重子音が異なるビートに属するために単純化が生じない例を見ることにする。*windmill* は2つのビートに対応する語（構成要素 *wind* と *mill* がそれぞれ1ビートに対応）である。[wɪndmɪl] では両側を子音に挟まれた [d] が脱落する。3つの変数のうち、声と調音位置の2つの変数を共有する [n] と [d] のペアの方が似ているということになる。調音様式の同化により [ndm] は [nnm] になる。重子音 [nn] は、先の2例と同様、同一ビート内にあるため単純化され [n] になる。つまり、隣接音への完全同化と重子音の単純化により、[ndm] は [nm] になる。この [wɪnmɪl] も容認される発音形ではあるが、[wɪmmɪl] という発音形も容認される。この2つの発音形を関連付けているのは調音位置の同化である。歯茎音は後続子音の調音位置に同化する傾向が強いので、歯茎音 [n] は後続子音 [m] の調音位置に同化し [m] になる。[wɪmmɪl] における重子音 [mm] のそれぞれの [m] は異なるビートに属しており同一ビート内にはないので、単純化されることはない。

最後に *sandwich* の2つの発音形 [sænwɪdʒ], [sæmwɪdʒ] を取り上げる。最初に2点確認しておきたい。ひとつは、[w] の調音位置である。両唇と軟口蓋の2箇所と同じ程度の狭めが作られることから、[w] の調音位置は両唇と軟口蓋である。もうひとつは、*sandwich* は1ビートに対応する語である。*windmill* の2つの発音形 [wɪnmɪl], [wɪmmɪl] と *sandwich* の2つの発音形 [sænwɪdʒ], [sæmwɪdʒ] とをそれぞれ比べると、歯茎音 [d] は先行子音 [n] の調音様式に同化し重子音 [nn] が生まれるが、重子音の単純化により [n] になる点が両者に共通している。さらに、この [n] は後続子音 [m] および [w] の調音位置（両唇）に同化する。

（宇佐美 文雄）